



研究者名※	藤井 雅子	学位※	博士(文学)
所属※	文学部 史学科	職名※	教授
連絡先	mfujii@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0142077		
研究分野※	日本史		
研究キーワード※	中世史、宗教史、史料研究		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「近代歴史資料緊急調査醍醐寺文書調査事業」(文化庁委託業務、2016～2021年度、研究代表者 藤井雅子) ・「日本中近世寺社(記録)論の構築—日本の日記文化の多様性の探究とその研究資源化」(科学研究費・基盤研究A、代表者 遠藤基郎、2018～2022年度) ・「建築・聖教・美術から見た古義・新義を包括的に捉える日本密教史の再構築」(科学研究費・(基盤研究B、代表者 山岸常人、2016～2020年度) ・「天野山金剛寺の聖教史料目録の作成と研究」(天野山金剛寺受託研究、2016～2021年度、研究代表者 藤井雅子) 		
社会貢献・産学官連携活動等	古文書学会評議員、神奈川県文化財保護審議会委員、文化庁文化財買取会議委員、茨城県古河市文化財保護審議会委員、醍醐寺文化財研究所所員		
受賞歴	日本女子大学茅野蕭々・雅子賞 日本女子大学教育賞		

研究領域	日本史、中世史、宗教史、史料研究	(SDGs)
研究テーマ※	中世醍醐寺における修学活動と法流相承に関する研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 中世の醍醐寺に関する歴史研究は、世俗権力者との関わりの中で行われてきた。しかし寺院や僧侶の本分である僧侶の修学活動や法流相承に注目することでこそ、醍醐寺の寺院としての立場や実態が明らかになると思われる。また醍醐寺の法流は、寺内や畿内にとどまらず、地方においても広く伝えられていったことが知られている。よって、醍醐寺における法流の相承について、醍醐寺の内外から検討を行うことで、中世社会における醍醐寺やその法流の影響について解明する。</p> <p>【応用例、研究の展望】 中世醍醐寺と関わりを持った末寺などの地方寺院は現在も多く存在する。しかしながら、地方に遺される寺院史料の分析や活用はほとんど行われていない。こうした地方の寺院史料とともに、醍醐寺所蔵史料を併用することにより、醍醐寺と地方寺院との関係や法流の広がりの実態についても明らかになると思われる。</p> <p>【研究方法の特色】 現在、醍醐寺を始め、いくつかの寺院史料調査に直接携わっている。そうした調査で得られた史料や成果を元に、研究を進めていきたい。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・「中世醍醐寺における他寺僧の受容」、『日本女子大学文学部紀要』66・71～84頁、2016年 ・「醍醐寺・根来寺と田舎本寺との寺僧交流—尾張国万徳寺を通して—」、永村真編『中世寺院社会と仏法』勉誠出版、67-95頁、2021年 	
共同研究・外部機関との連携への期待	・	